

メダイの一本釣にける想い

筑後 修さん



筑後 修さん（30歳）

今年3月8・9日、東京で開催された第11回全国青年・女性漁業者交流大会に島根県代表（2名）として参加しました。

筑後修さんは、福島県の中央に位置し太平洋に面した漁師町、双葉郡浪江町で生まれ育ちました。高校卒業まで浪江町で過ごし、卒業後は東京の水産会社に就職しました。

東京で働き始めてから数年が経ち、

平成15年1月、妻の実家がある

仁摩町へ1ター

ンし、小型底び

き網漁船乗組員

として働くこと

になりました。

働き始めて

数ヶ月後、腰を

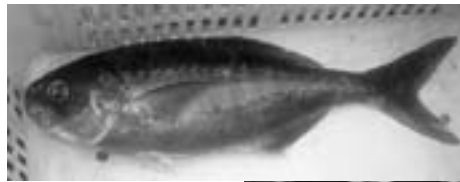
痛めてしまい、小型底びき網漁船で働くことに限界を感じ始めました。そんな時、知り合いから遊漁船業の紹介があり、「これなら自分のペースで出来る」と思い、独立の準備に取り掛かりました。それから船舶免許を取得し、一本釣協議会の先輩から講習を受けながら、現在の船『祐栄丸』を購入し、一本釣漁業者としてデビューしました。

はじめは苦労の連続で、思うように操業できない日が続きました。しかし、先輩の助言を受け、勉強を重ねていくうちに、徐々に潮の流れの読み方やメダイの釣り方が分かるようになっていきました。

メダイを対象とした一本釣漁業は、新規漁業者でも取り組みやすく、努力次第で大きな収入を上げることが出来ます。

筑後さんは、「私がここまで出来るのは、仁摩地区に一本釣協議会という組織とメダイの一本釣という漁法があったから。そして島根県の新規漁業者支援事業があったことも、私が一本釣漁業者として歩み出す上で大きな力になった」と語ってくれました。

また、筑後さんが釣ったメダイは、自ら営む魚料理店『より道』で粕漬けやししゃぶししゃぶ、一夜干しとして出しています。多くの皆さんにメダイの美味しさを知ってもらえるよう夫婦で協力し、頑張っています。



メダイ（イボダイ科）
※大田市では『ダルメダイ』、『ダルマ』とも呼びます。



魚料理店『より道』

漁業協同組合JFしまね 仁摩支所一本釣協議会

昭和45年に発足し、平成17年度の会員数は44人。

主な活動内容は、一本釣を主体とした漁具漁法の研究、仕掛けの改良などの情報交換を行う。最近では、近隣の一本釣協議会と協力しながら、UJIターン漁業者の技術指導に力を入れている。

◆問い合わせ

0854-88-2311

定住していただくターゲットを若者世代とこれから定年退職を迎える方々を中心に、豊かな資源を活用した新たな産業の創出と子育て支援の充実をビジョンの大きな柱に据え、策定する考えであります。

皆様からのご意見も伺いながら、進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◆平成17年国勢調査（速報値）

（単位：人）

	平成12年	平成17年	増減
大田市	42,573	40,699	△1,874
旧大田市	33,609	32,333	△1,276
旧温泉津町	4,053	3,680	△373
旧仁摩町	4,911	4,686	△225



陶芸に関わる仕事がしたい 又吉 加那さん



又吉 加那さん（23歳）
 温泉津に来てびっくりしたことは下校途中の小学生に出会ったら「帰りました」と声を掛けられたこと。私の地元ではそういう言い方はしないんですよ。

やきもの館には、子どもから大人まで様々な人たちが訪れます。「大人の人、子どもみたいに無邪気な顔をして、一生懸命創作している姿を見るのがとても好きです。体験者の方が帰られてから「削り」（成形したものを、適当な乾燥状態の時、外形を整えること。器などの高台もこの時削り出す）をす

ここでやきもの体験のインストラクターをしている又吉加那さんは、平成17年4月、京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科を卒業と同時に、兵庫県から温泉津町にやってきました。小さい頃から図工が好きで同大学に進み、

輝く

このコーナーでは『大田市』で活躍紹介します

かつての陶郷風情を彷彿させる温泉津の急な斜面に重なり合う瓦屋根の2基の登り窯。やきものの町・温泉津の一角にある『やきもの館』では、陶芸体験をしたり温泉津のやきものの歴史を展示やビデオにより観ることが出来ます。
 また、4月29日（土）・30日（日）には、『やきもの祭り』が行われます。



陶芸の道を志しました。

きっかけは、やきもの館がインストラクターを探していた際、温泉津と親交の厚い同大学の教授からの紹介でした。又吉さんが決意できたのは、「やきものがあつて、海があつて、温泉がある。温泉があつてことは、いろんな人たちが出入りしているということ。田舎暮らしがしてみたくった私にとつて、いい条件だ」と思ったからです。

けると嬉しいですね。作品をお送りしてお礼のしがきをいただくと、いいものはいんだな」と感じます。
 また、温泉津の印象を尋ねたところ、「静かない町。窯元さん、地元の人たち、温泉街の人、これまで出会ったことのない人たちと出会いました」と語ってくれました。
 「これからもここで陶芸に関わる仕事が続けたい」と、今後の抱負を語り、飾り気のない人柄で、地元の人々に可愛がられています。



陶芸創作体験の様子

第38回日本有線大賞 新人賞受賞

旧大田市ふるさと情報誌（第11号）で紹介しました吾郷水木生さん（大田市出身）は、沖縄県出身の地下正晃さんと音楽ユニット『navy&ivory』を結成し、全国的にご活躍中のアーティストです。

昨年12月に行われた第38回日本有線大賞において、デビューシングル『指輪』で新人賞を受賞されました。今後ますますの活躍が期待されます。

★UJIターンの促進と定住を目指して

平成17年に行いました国勢調査の速報値が出ました。大田市の人口は、40,699人と5年前に比べ1,800人以上も減少しています。細かい分析はこれからとなりますが、若者の都会への流出と少子化が大きな要因と考えています。人口の減少は、地域産業の停滞や地域活力の低下を招きます。

大田市では、平成18年度に大田市のまちづくり指針となります『総合計画』を策定しますが、特に、定住促進は最重要課題であります。

そこで、定住促進を強力に、かつ集中的に進めていくため、総合計画と平行して『定住促進ビジョン』を策定することとしました。